

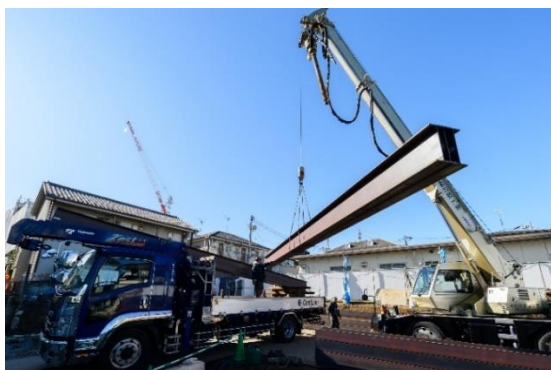
## 新校舎「白雲館」完成までの建設レポート②

白雲館建設工事の進捗状況をご報告させていただきます。

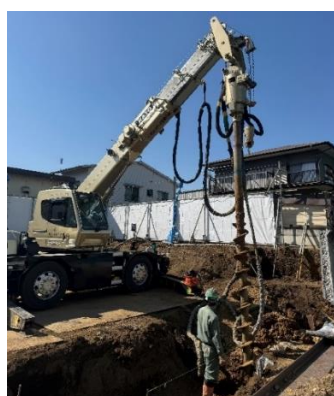


前回の「建設レポート①」でご報告させていただいた土や瓦礫の搬出が終わると、既存校舎の3階に達するほどの長いアームを持つ大きなクレーン車が入ってまいりました。このクレーン車は「山留め」作業で使用されます。

前回の掘削作業で既存校舎側の地面と高さを合わせましたが、建物の基礎となる杭や鉄筋を設置するために、さらに掘削を行う必要があります。その際になにも対策をせず始めてしまうと、地盤崩れを招く恐れがあるため、「山留め」という壁をあらかじめ埋め込んでいきます。



新校舎建設工事では、親杭と呼ばれる H 鋼材を 1.5m ほどの間隔で地中に埋め込み、その間を木製の矢板を横向きに差し込んでいく、親杭横矢板(おやくいよこやいた)工法という最もメジャーな山留め工法が採用されております。



この作業では、クレーンにオーガーと呼ばれる大きなスクリーを装着して地面に穴をあけ、そこに約 8m の H 鋼材 64 本と大量の矢板を差し込んで、約 80 m<sup>3</sup> の「山留め」を 3 週間ほどかけて形成していきます。

次回からは、いよいよ本格的な建設作業に移っていきますので、楽しみにしていただけますと幸いです。引き続き、安全に配慮した上で進めてまいります。また進捗がありましたら、ご報告させていただきます。